

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472300591		
法人名	有限会社後藤企画		
事業所名	グループホームやすらぎ		
所在地	大分県由布市挾間町古野186番地1		
自己評価作成日	平成28年3月11日	評価結果市町村受理日	平成28年6月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_pref_search_list&list=true&PrefCd=44
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府壺番館 1F
訪問調査日	平成28年3月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者との共同生活を営みながら「出来ること」が最大限維持できる様な支援を心掛け、また「出来るような事」もご利用者と相談しながら実施して行く様な努力をしています。また日常生活の中での生活日課をいかに生活日課と感ぜないように職員がサポートしていくかといった視点をもって業務に取り組みご利用者が家族と思って頂ける様に共に笑ったり泣いたりする事を大切にしています。施設の庭には、季節ごとに四季折々の花を植え替え、利用者が自由に花を摘み居室に飾ることが出来、天気の良い日には草花を觀賞しながら、お茶を飲めるガーデニング造りに力を入れています。利用者が買い物や外出を希望すれば出来る限り対応出来る体制作りに取り組んでいます。隣に小学校が在るので良く散歩に行き交流をしている事から行事へのお誘いや、校内新聞を持って来てくれたりと良い交流が出来る。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幼稚園、小学校、大病院が周囲にある文教地区に位置しています。民家を改装したホームとバリアフリー設計の2ユニットからなる事業所です。広い庭には四季折々の花が植えられ、利用者と一緒に作業したり、天気の良い日は花を眺めながらお茶を楽しんでいます。周辺には花木も植えられ部屋から眺め季節感を味わっています。管理者と職員は、チームワークを大切に、理念のもと利用者に寄り添って支援されている姿が見られます。また、地域の一員として、地域に溶け込み活発な交流が図られています。重度化や終末期に向けた対応としてマニュアルや対応指針が作られており、職員、家族、医療機関と連携を図りながらチームケアに取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設提供サービスが理念に沿っているか、サービス提供を振り返り、理念の実践に向けて、日々取り組んでいる。	開設当時の理念を日々のケアの中から、より実践的に見直しを行っています。「目配り、気配り、心配り」を目標に掲げています。職員全員で話し合い、理念を念頭に利用者本位の姿勢で日々の支援に取り組まれています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	学校、保育園を通し、地域の子供を受け入れ交流を図る事などは、積極的に取り組んでいます。散歩や外出時の挨拶や自治会、学校行事に参加し、交流を深めている。	自治会に加入し、地域の行事に積極的に参加、事業所の行事には、地域の方を招待し交流を深めています。日々の散歩では、近所の方と挨拶を交わし、地域の一員としての交流がみられます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者の家族に対しては、認知症の症状の話伝えることはあっても、近隣の人々へ向けたものは、実施できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内に意見箱を設置し、積極的に意見を取り入れている。その事を職員の対応や施設の雰囲気などサービス向上に活かしている。	意見箱の設置で意見を取り入れ、サービスの向上につなげています。運営推進会議は、定期的に開催が出来てない現状です。	定期的に会議を開催して、事業所の活動報告のみならず、会議毎にテーマを設け、地域に開かれた事業所として取り組まれる事を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の変更届や介護保険の更新申請においての相談や窓口で足を運んだり、電話での情報交換を積極的に行っている。市町村で主催される研修会等へ積極的に参加している。	市の窓口には、各種申請や変更届等の相談や情報交換で足を運んでいます。市の職員も丁寧に対応してくれています。電話や運営推進会議でも積極的に実情を伝え協力関係が築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止となる事項は、概ね理解しているが、全職員が全ての理解は出来ていない。職員配置や時間では玄関を施錠する事が起きているが、対応できる時間帯は利用者との外出や「外に行く」という利用者の行動を制限しないようにしている。	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する研修会や勉強会に出席し、日々の実践のなかで理解を深めています。言葉や態度による拘束、虐待等管理者の指導のもと意識改革に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修や研修参加後のレポート提出を実施して情報の共有化と教育に努めている。また、お互いの言葉使いや介護方法などが適切で有るかお互いに確認し合い、不適切である場合は話し合いを持って改善をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や日常生活自立支援事業については職員への理解が不十分である。定期的な勉強会で教育を図るように努力していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所当日には必ず契約書と重要事項説明書をお互いに見ながら説明をし、不明な点を明確にしておくと共に、契約後も不具合があれば電話や面接時に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の意見、不満、苦情を管理者が常に聴き、会議の場において、職員とその内容を整理しながら改善に努めている。	家族からの意見や要望は、面会時や電話・ファックスで受けノートに記録し対応しています。管理者は利用者、家族の意見を職員と検討し改善の経過や結果を家族に伝えています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に個人面談を行うと共に、通常業務終了後や業務中に意見をきく機会を設けたり、カンファレンス、ミーティングで出た意見をその次までに具体的に職員で伝達するようにしている。	職員の意見は毎月のミーティングや、日々の業務の中で聞き取るようにしています。管理者は、普段から職員の様子をみてコミュニケーションを図るようにしています。職員の意見や要望を反映できる職場づくりに努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設設備や業務内容や職員配置などで不具合があった場合には、出来るだけ早く対応するようにしている。代表者も職員の業務や悩み相談にのり働きやすい職場づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	固定の職員へ付いてもらい、業務の流れや技術などを教育していく。また外部、内部研修へ参加する機会を設けながら報告書作成して職員全員で共有出来るように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的な全体ミーティングで自分達の援助内容の確認や関連の事業所との交流を持つ事で、サービス内容の気付きが出来るようにして行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者からの訴えに対しては、しっかりと話を聞いて否定しない対応を心がけている。本人の状況を把握し、不安を受け止めて安心して貰えるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの困っている事や施設への要望については、出来るだけ対応しているが、施設機能をこえたものに対しては、しっかりと家族と話を持って対応出来ないことを把握して頂くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その人、その家族により必要としている事は異なるので、良く話し合い、出来るだけ要望に応えられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個別対応を出来るだけ心がけている。ご利用者の出来ること今までしていたことを日常生活に取り入れ、利用者との共同生活をしながら職員側が適時サポートするといった視点で日々取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、本人の日々の生活状況をできるだけ把握して共有することで、家族と一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の知人の方の面会があった時は、楽しく過ごせるように対応している。また、希望がある方は手紙を出すことや電話をしたりして要望を聞いて交流を保てるように出来るだけ支援している。	入所前からの付き合いのある友人や親せき・子供・孫達も気軽に面会に見えています。家族の協力で友達の所に連れて行ってもらう、楽しく過ごされる利用者もいます。年賀状や電話で馴染みの関係が継続できるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う仲間の関係を大切にしつつ、レクレーション等を通じて、利用者同士が関わりあえるような場を多く設けている。利用者同士のトラブルに発展しそうな時は、迅速に対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族など利用終了後も相談があった場合には、積極的に丁寧に対応している。また、家族の方とは電話でやりとりし継続的な関わりを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者へ直接確認する場合と、ご家族への確認を併用して実施している。	日々の生活の中で、利用者一人ひとりの希望の把握に努めています。意思疎通の困難な利用者は、家族から情報を得たり表情や仕草からくみとり、支援へ繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から自宅での生活の様子が伺えるよう、面会時に積極的に話をするようにしている。また、ご本人へも日頃していたことを聞く様に対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のカンファレンスや日々の朝の申し送りを活用して、ご利用者の状態把握の情報の共有化に努め、記録として残している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活能力の変化があった場合やご家族からの要望には迅速に対応した計画の見直しを行っている。また、軽微な変化に対しては、毎月のカンファレンスを活用し、職員間の情報共有に努めている。	介護計画は、基本 6ヶ月・3ヶ月と設定されていますが、月1回のミーティングの中で変化が見られた利用者は見直しを行っています。利用者・家族・関係者が話し合い、意見や要望を反映した利用者本位の介護計画となっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を読むとその人の生活状態がわかるような記載方法をし、申し送りを活用したり日々記録を見ながら指摘するようにしている。出勤したら必ず記録を見るように指導している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所側の時間の流れで、毎日をご過ごすのではなく、1日の中で少しでもご利用者の過ごしたい要望を取り入れるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みのボランティア、地域で活動している演奏家に声をかけて施設へ足を運んでもらっている。また、消防訓練時は消防署の協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期の往診に加え、不調の様子が観察されれば適時受信対応を行っている。また、協力病院の主治医とも直接電話をする場面もある。また複数の医療機関と関係を結び、ご家族と相談しながら対応している。	これまでのかかりつけ医の継続と、遠方からの利用者の中には利用者、家族の納得のもと、協力医に変更される方もいます。複数の協力医が毎週の往診や定期健診、緊急時の対応等医療連携が密に図られています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と訪問看護ステーションの看護士とは気軽に相談できる関係ができています。また協力病院への相談内容を共有化できるように記録を活用して対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者の入院の際には、施設での生活状況を情報提供するとともに、入院中の状態を把握するために面会や病院看護職員と話しをするようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の有り方について本人や家族と共有する。また、担当医との連絡を密にし、訪問看護ステーションとも連携している。	利用者の体調変化により重度化が見込まれる時は、利用者、家族の希望に沿い協力医との連携で、ホームで出来得る支援に取り組んでいます。重度化、看取り対応に関する指針を作成しており家族に説明し同意を得ています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入所時に、急変時の意向確認書作成を依頼していて、それに添った対応をしている。また、急変ではないが体調不良などで診察を行った場合は、その都度御家族への連絡をするようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練時に消防署よりアドバイスと参考マニュアルの指示を受けている。また、地震や台風などが報道された場合は、職員同士の話し合いを持つようにしている。ただし、地域との協力体制については不十分であると認識している。	年2回避難訓練を実施しています。消防署より指導を受け、指摘事項については職員間で話し合い改善し次回の訓練に活かすとともに、地域との連携には、消防団のアドバイスを受ける等今後の取り組みに期待されます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	話し方、対応には十分に配慮して行く様に職員同士声をかけ合っている。プライバシーが必要な対応は、部屋の戸が開けたままにならないように対応している。	市主催の接遇研修に参加し、尊重とプライバシーの確保について勉強されています。利用者目線での会話や排泄介助時の羞恥心への配慮を心掛けています。個人情報の適切な取り扱いや守秘義務の遵守等、情報管理を徹底しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事メニュー作りや外出先など、御利用者と一緒に考えて、本人の思いや希望が表せるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声掛けを頻繁にして、気持ちの把握に努め、生活目標、ご利用者がいつもしたい事を時間を区切らず援助している。買い物や散歩等一人一人の思いに配慮しながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容動作の声かけや外出時などの服装の選択などその都度職員が対応している。また、訪問理美容のカットの際にも希望に添えるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者が食べたい物を提供したり、時折希望の惣菜を購入し満足感を得られるようにしている。	対面キッチンで専門の職員が調理を行っています。献立表は作成していますが、利用者の希望や嗜好を考慮し、食材と見合せ、献立を変更することがあります。職員は介助や声かけを行い、食の進み具合を見守り、食事が楽しく取れるよう支援をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、安全にかつ美味しく摂れる食事形態の工夫をして一人ひとりの状態に合わせている。また栄養低下の際は高栄養食を利用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔内の歯磨きへの声かけ、誘導と共に、不十分な場合は介助している。また重度の利用者に対しては、口腔ケア用品を使い小まめに保清している。また、週一回の義歯と歯ブラシの消毒日を決めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、排泄パターンを把握する努力をすると共に、状況に応じたその人に合った対応をしている。	利用者の様子を観察し、排泄チェック表により個々の排泄リズムを把握して、誘導や声かけを通じて排泄の自立に向けて適切な援助方法を工夫しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヤクルトや食物繊維の多い食事メニューによる予防と処方されている服薬を効果的に活用する様に対応している。毎日、ラジオ体操をして運動できる様取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の利用者の気分で入浴は対応している。時間外の入浴にも柔軟な対応で支援している。	利用者の好み(入浴時間・湯温等)や体調に配慮し、希望があれば毎日の入浴も可能です。その為、入浴は1日2~3名を限定し対応をしています。入浴剤で気分転換を図ったり、温泉に行く等入浴を楽しめるよう工夫しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースに合わせ、休みたい時間で就寝したり、中々寝付けない時には、温かい飲み物を提供したり、おしゃべりをしたり、また夜勤帯は職員の足音に対しても注意を払っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受信後の服薬情報を申し送ると共に、変化があったら、ノート等を活用している。副作用が疑われる場合には、適時受診対応出来るよう、職員間での情報共有に努力している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人での作業した結果は、自室やリビングに飾るように努めている。作業に於いて、モップかけ、洗濯星、畳などの、その人に合わせた役割で楽しみながらして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の体調や気分、希望に応じて日常的に散歩や買い物、ドライブ等に出かける様に支援している。	近隣への散歩や買い物、季節に応じたドライブ等への支援に取り組んでいます。庭には季節の花が咲き誇り、利用者はお茶を飲みながら、花を觀賞し、気分転換を図っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現時点での利用者には、お金の管理については無理が有るので、所持している利用者はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの連絡が有った場合は、「ご本人と話をしますか」と確認すると共に、ご利用者からの希望が有った場合は、その扱いは自由になっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾りの活用や、ある程度生活感が有る中での整理を心掛けている。	テーブルの上には、庭に咲いている花々を飾り季節感を楽しんでいます。利用者の状態を考慮し、居間でのソファの配置等、共用空間が明るく暮らしやすくなるよう環境作りを支援しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	花が好きな方も多く、四季折々の花を楽しんで貰える様に、テーブル、椅子を配置し、お茶を飲みながら楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用した物を出来るだけ持ち込む事をお願いしている。一緒に整理したり、掃除をしたりするように心掛けている。	利用者のプライバシーを守りながら、居心地良く安心して暮らせるよう配慮しています。居室には馴染みの小物、趣味の物(本や人形等)家族写真を配置しており個々の利用者が思い思いに、落ち着いて過ごせるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの取り付け、部屋の表示やトイレの表示など、その都度工夫してご利用者が見て解る様な表現や高さにするなど努力している。		